

日頃の備えが大切！

住まいを安全に

アパートなどを借りる際は、安全な地域で耐震性のある建物を選んでください。自治体では、地震、津波、水害などのハザードマップを公表しています。家具転倒防止やガラス破損対策をして、大地震時の室内安全を確保してください。自宅が古い（特に 1981 年以前）建物の場合は、耐震診断、耐震改修を検討してください。

非常持ち出し品を準備

災害時に必要なものは一人ひとり違います。持病の薬や眼鏡のスペアなど、必要なものをリストアップして準備しておきましょう。また、誰にも共通して必要なものは、食料や水（1 週間～10 日分）、現金や保険証などの貴重品、ラジオ、懐中電灯、衣類などがあります。大学や外出先で災害にあうこともありますので、小型のラジオ、ライト、携帯電話の充電器（電池式）、非常食料などをカバンに入れておくと役に立ちます。

避難場所と避難経路、帰宅方法を確認

自宅や職場近くの避難場所・避難所と、そこまで安全にたどり着くまで安全な避難経路を確認しておきましょう。岐阜市のホームページには「避難場所・避難所」が掲載されています。指定された場所に限らず、家族で落ち合う安全な場所をあらかじめ決めておくことも重要です。海岸に近い場所では、津波からの避難に特に注意してください。また、災害時の帰宅方法もチェックしておきましょう。大災害時には、無理に帰宅しようとせず、大学等の安全な場所にとどまることも重要です。大学や地域で実施される防災訓練にも積極的に参加しましょう。

岐阜県 HP では、「自分の命は自分で守る」ことを多くの人が実践できるようにするため、避難指示や、災害・避難カードの作成に関する解説を行っています。

岐阜市（避難場所・避難所）<https://www.city.gifu.lg.jp/kurashi/bousai/1001382/index.html>

岐阜県（避難指示について）<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/20887.html>

岐阜県（災害・避難カードの書き方）<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/22564.html>

岐阜県（WEB 版災害・避難カードを作ろう）<https://bousai.pref.gifu.lg.jp/>

非常時の連絡方法を確認しよう

大規模災害発生時には、家族、友人、大学と連絡を取る方法が大変重要です。一般の電話や携帯電話（音声）は非常につながりにくくなります。その場合、災害伝言ダイヤル 171 や携帯電話の災害伝言サービスなどを活用しましょう。大学への連絡は、安否確認システム（ANPIC）を使いましょう。

緊急連絡用メールアドレス

大学からの緊急連絡や安否確認システム（ANPIC）に使用されます。年 2 回、安否確認システムを利用した防災訓練が実施されます。4 月中に登録を済ませるようにしましょう。

災害用伝言ダイヤル 171（いない）

171 番に電話をかけて、音声ガイダンスに従い「被災地内の電話番号（市外局番を含む）を入力すると、安否等の伝言を 1 伝言あたり 30 秒、計 10 伝言まで預かってくれるサービスです。原則、災害時のみの利用ですが、毎月 1 日、15 日、防災週間（防災の日（9 月 1 日）を含む 1 週間、正月三が日（1 月 1 日～1 月 3 日）、及び防災とボランティア週間（1 月 15 日～1 月 21 日）に体験することができます。<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/>（NTT 西日本）

災害用伝言板（web171）

インターネットを利用して、伝言 1 件あたり最大 100 文字までの伝言情報（テキスト）の登録・閲覧ができます。災害用伝言ダイヤル 171 と同様の体験利用期間が設けられています。<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/>（NTT 西日本）

携帯電話の災害用伝言板サービス

携帯電話のデータ通信では、災害時には「災害用伝言板」がトップメニューに表示され、その伝言板を利用して安否確認の連絡ができます。詳細は、携帯各社の資料を調べてください。安否連絡先の事前登録機能もあります。

2025 年度版

東海国立大学機構防災ガイド

地震・風水害

岐阜大学版

地震災害・風水害に備えて

大学生生活を安心して送るために

岐阜大学が位置する東海地域では、近い将来に南海トラフ沿いの大地震による大災害の発生が予測されています。これに加えて、近年は、ゲリラ豪雨や台風に伴う風水害が日本各地で頻発しています。岐阜大学で学ぶにあたって、地震や豪雨・台風から命を守り、災害に適切に対応するために、住まいの選択や室内の安全対策、非常用品の準備、および避難方法や避難行動の目安確認などが必要です。また、大学内には、実験機器・薬品や重量什器など、地震時に危険なものも多数あります。地震災害や風水害を人ごとと考えず、是非、事前の備えをしておきましょう。

東海地域で想定される大地震

①南海トラフ沿いで発生する大地震

太平洋沿いの相模湾から日向灘沖にかけての「南海トラフ」と呼ばれるプレート境界では、概ね 100 ～ 150 年間隔で大地震が繰返し発生し、その度に甚大な被害を及ぼしてきました。最近の地震は 1944 年昭和東南海地震と 1946 年昭和南海地震です。これらの地震から既に約 75 年が過ぎており、次の大地震が近づいていると予想されます。2011 年東日本大震災に匹敵する地震の規模を表すマグニチュードで 9 程度の大地震が発生する可能性もあり、その場合には、右図のように広域で震度 6 弱以上の強い揺れが推定されています。また、揺れは数分以上続くので、その間身の安全を守る行動をとりましょう。

②高さ 10m 以上の大津波

地震が海底で起きた場合には、大きな津波も発生します。南海トラフの地震では、太平洋に面した沿岸地域で高さ 10m 以上の大津波が短時間で襲来すると推定されています。海岸近くで揺れを感じたら、すぐに海岸から離れできるだけ高い場所に避難しましょう。

③内陸活断層に発生する地震

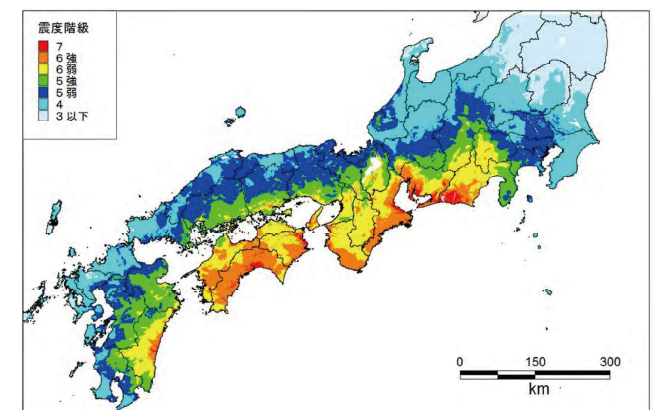
中部地方から近畿地方にかけては、右図のように内陸活断層の密集地帯です。活断層の地震の繰返し間隔は千年～数万年と長く、きわめて稀なことですがひとたび地震が発生すると、断層近傍では激烈な地震動となります。1891 年濃尾地震、1995 年兵庫県南部地震、2016 年熊本地震、2024 年能登半島地震などはこのタイプの地震で、建物倒壊により多数の死者が発生しました。防災訓練で使われている緊急地震速報も間に合わず、突然、非常に強い揺れに見舞われることになります。安全行動をとることすら難しくなりますから、家具や設備の固定など、安全確保のための事前の備えが何よりも肝心です。



1995 年阪神淡路大震災における建物被害



名古屋市「東海豪雨水害に関する記録」より



陸側ケースの震度分布

南海トラフ地震における推定震度分布（内閣府による）



主な活断層の分布

（産業技術総合研究所 活断層データベース）

南海トラフ巨大地震について確認しよう！ <https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/leaflet.html>

大地震が発生したら……

自分の身を守る（最初の数秒）

揺れを感じたとき、または緊急地震速報（3 ページ参照）が鳴ったときは、直ちに危険な家具や器具などから離れて、丈夫な机の下などで身の安全を図ります。特に頭を守るように留意しましょう。可能なら扉を開けて避難経路を確保します。

揺れがおさまったら（2～3分）

落ち着いて火を止め、電気のブレーカーも落とします。周辺の人の無事を確認し、余震に注意して、建物外に避難します。避難にはエレベーターを使わないこと。

避難したら（5～10分）

情報や指示をよく理解し、建物外の安全なところに避難したら、パニックや二次災害を防ぎましょう。

安全に気を付けて消火や救助の支援（1～数時間）

大災害時は救助も遅れがちになります。自分の安全が確保できる範囲で、消火や救助活動などを手伝いましょう。

家族や友人、大学などとの連絡（1日程度以内）

あらかじめ決めておいた方法（8 ページ参照）などにより互いに連絡をします。大学には安否確認システム（7 ページ参照）により、居場所やけがの状態などを伝えましょう。

講義中だったら……

書棚や吊り下げテレビなどから離れ、机の下などで身の安全を確保します。実験機器や薬品などを使用している場合はすぐに離れ、揺れがおさまったら可能な範囲で始末します。教員の指示に従って行動してください。

エレベーターの中に居たら……

すべての階のボタンを押してください。万一、閉じ込められた場合は、インターホンを押して、守衛室や建物内の方に通報してください。扉の外に人の気配がしたら、音を出して存在を知らせてください。非常用備品ボックスが設置されている場合は、これを活用して救助・復旧を待ってください。

学内の避難

大勢で出口や階段に殺到すると大変危険です。学内の各建物では、教職員や「自衛消防隊」が避難誘導します。建物ごとに「一次避難場所」が決められています（6 ページ参照）ので、落ち着いて指示に従い避難してください。

通学途中だったら……

歩いているときは、ブロック塀や自動販売機、看板、ビルのガラス、切れた電線など危険物から離れます。カバン等で頭を守って、公園や広場などの安全な場所へ。

電車や地下鉄、バスなどに乗っていたら……

車内放送を聞き、落ち着いて係員の指示に従います。勝手にドアを開けて外に出ないこと。対向車両などの危険があります。

デマに惑わされない

学外の場合、自治体や消防機関・警察機関の指示に従い、ラジオやテレビ、広報車等から情報収集をしましょう。



転倒した書棚に潰されたテーブル



機材が散乱した化学実験室



倒壊した石塀

岐阜大学安否確認システム（ANPIC）

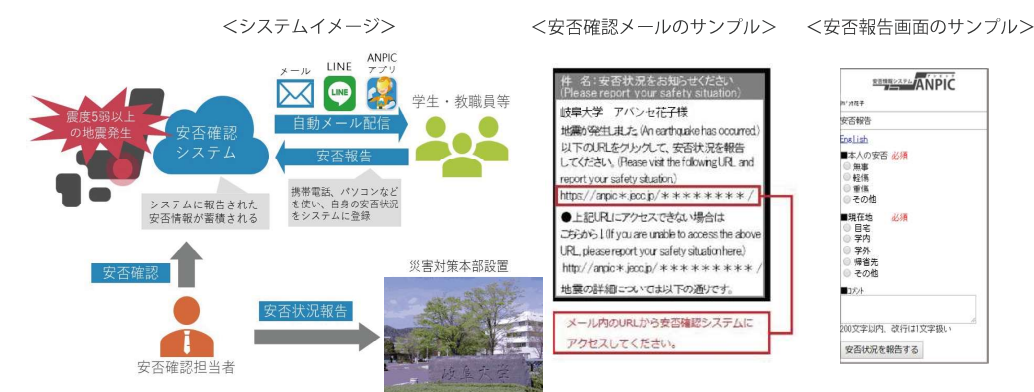
岐阜大学安否確認システム（ANPIC）の概要

大地震発災時における皆さんへの安否確認は、1. 発災直後に建物内に取り残された人がいないかを確認するため、2. 初動・応急対応がほぼ終了し、復旧対応に入った際の授業や研究活動の再開、入試、就活等、日常に戻すタイミングの判断を行うために非常に重要です。大多数の構成員の安否状況の確認を完了してからでなければ、上記2の段階に移行できません。そのため、無事であっても必ず返信していただく必要があります。

岐阜大学では岐阜県内または愛知県内で、「震度5弱」以上の地震が発生した場合、気象庁から配信される地震情報を ANPIC が取得し、本学学生及び教職員に対し、**ANPIC 送信アドレス【no-reply@jecc.jp】** から安否確認メールが自動配信されます（＜システムイメージ＞参照）。安否確認メールを受信したら、メール内にある URL (https://anpic*jecc.jp/*****、＜安否確認メールのサンプル＞参照) へアクセスし、安否状況を報告してください。安否報告は、なるべく早く行うことが求められますが、避難などにより、少なくとも安全を確保した後に行ってください。また、上記以外の災害発生時等においては、発生した災害による影響を鑑み、必要に応じて大学の管理者が、手動でメール配信を行います。

岐阜大学では、安否確認のための第1緊急連絡先を機構メールアドレスとしています。地震はいつどこで起きるか分からないことから、安否確認メールはスマートフォン等、いつでもどこでも受け取れる体制にしておく必要があります。そこで、皆さんには、以下のいずれか、もしくは複数の方法で安否確認メールを受信できる設定をお願いします。

1. スマートフォン等により機構メールアドレスへ送信された安否確認メールを受信
2. ANPIC サイトに職員番号または学籍番号でログインし、携帯やプロバイダ等で登録されたメールアドレスを第2、第3緊急連絡先として登録し、それらのメールアドレスから安否確認メールを受信
3. App Store や Google Play より ANPIC のアプリをインストールし、アプリより安否確認メールを受信（この場合、アプリから回答可能、「スマートフォン用アプリ等の利用方法について」を参照）
4. ANPIC のアプリのインストール後、LINE より安否確認メールを受信（LINE から回答可能）



アドレス指定受信の設定（ANPIC からのメールが届かない場合）

携帯電話等のメールアドレスを登録した場合は、必ず ANPIC からのメールが受信できるように ANPIC 送信アドレス【no-reply@jecc.jp】を指定受信設定してください。

指定受信設定方法については、下記 URL (ANPIC サイト) の「ANPIC からの通知が届かない方へ」をご確認の上、設定をお願いします。
<https://www.anpic.jp/mailinfo>

スマートフォン用アプリ等の利用方法について

スマートフォン用アプリ等の利用によりメール内にある URL へのアクセスを回避することができます。

岐阜大学 ANPIC 初期設定サイト <https://anpic-gifu-u.jecc.jp/gifu-u/regist> で初期設定をした上で、スマートフォンにアプリをダウンロードし設定を行ってください。

ANPIC 初期設定サイト、設定方法、スマートフォン用アプリの利用については、「安否確認システム（ANPIC）利用者マニュアル」

岐阜大学安否確認システム（ANPIC）に関する問合せ

「安否確認システム（ANPIC）利用者マニュアル」のほか、安否確認システムの詳細について、岐阜大学災害対策室 Web サイト (<https://www1.gifu-u.ac.jp/~saigai>) にある「岐阜大学安否確認システム（ANPIC）について」をご確認ください。

安否確認メールが届かない場合は、総務部総務課にメール等にてお問い合わせください。

総務部総務課総務グループ 058-293-2004 または 2008 anpi@t.gifu-u.ac.jp



大地震発生時の一次避難場所

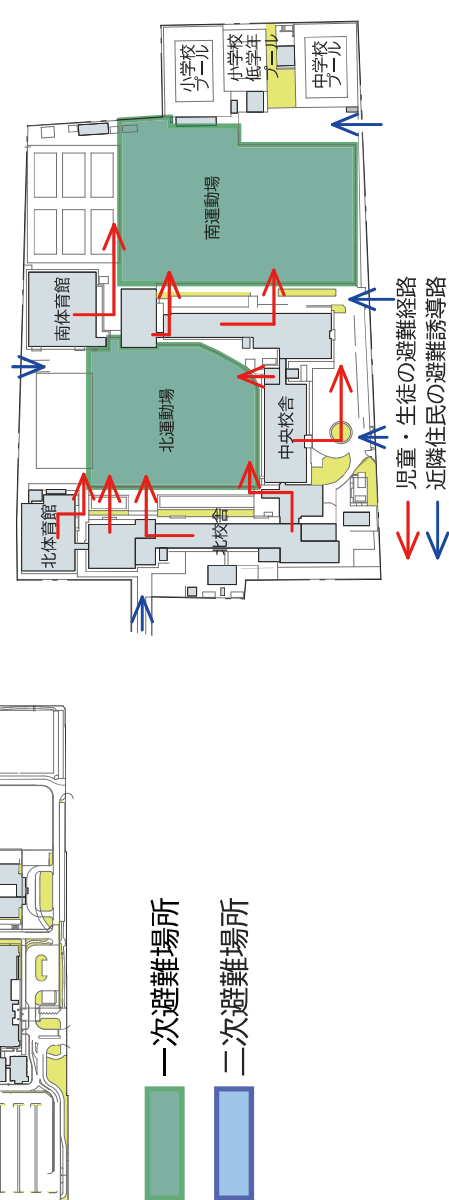
災害時は、今いる建物から最寄りの避難場所へ避難を！

柳戸団地

- (本部) 本部棟北側の芝生広場
- ①教育・地域南側
- ②第2食堂前
- ③図書館南側前広場(丸池周辺)
- ④旧テニスコート
- ⑤糖鎖棟南側
- ⑥医学部教育福利棟東側の芝生広場(ホスピタルパーク)



加納団地



一次避難場所

二次避難場所

緊急時の学内連絡先

◆柳戸地区 本部守衛室 058-293-3374

○学部等教務学生係等 (平日昼間のみ)

●教育学部・教育学研究科	293-2206
●地域科学部・地域科学研究科	293-3009
●医学部・医学系研究科(看護以外)	230-6075
●医学部・医学系研究科(看護)	293-3217
●工学部・工学系研究科	293-2371 293-2828
●応用生物科学部	293-2838
●社会システム経営学環	293-3440
●自然科学技術研究科(工学系)	293-2377
●自然科学技術研究科(応生系)	293-3410
●共同獣医学研究科	293-2987
●連合農学研究科	293-2984
●連合創薬医療情報研究科	293-7602
●グローバル推進機構 留学支援室	293-2137
●学務部教務課	293-2133
●保健管理センター	293-2174
●教育学部附属小中学校	271-3545 271-3507

連絡先は変更になる場合があります。災害時には電話が繋がらないことがありますので、岐阜大学のホームページを確認してください。

大学の室内の地震防災対策

什器や機材の転倒・落下・破損などの防止

岐阜大学では、危険な家具は全て固定することになっています。背の高い書棚やロッカーは転倒しないように固定し、パソコンやテレビ、重い書籍や破損しやすい機材は落下防止対策を確実に行いましょう。キャスターのついた機器は、臨時に固定する方法もあります。

実験装置や薬品の危険防止

実験室では、重く壊れやすい実験機材が多く、危険で有害な薬品やガスなども使用しています。日頃から危険な薬品等の整理・収納を徹底するとともに、地震時の安全のために機器や収納棚の固定や破損防止、薬品漏洩防止などの対策や、消火器の設置などをしましょう。大地震の際には、無理のない範囲で装置を安全に停止し、火気の始末等を行います。また、薬品火災などに備えて適切な対応方法を事前に確認しておいてください。

避難場所や経路の確認

各建物の近くに一次避難場所(6ページ参照)が決められています。あらかじめ確認し、スムーズに避難できるようにしましょう。また、階段や非常口などに荷物を決して置かないようにしましょう。

みんなで確認して備えましょう

非常時には互いの助け合いが必要です。教室や研究室では、防災訓練(10月実施)等に参加して、非常時の対応を確認しましょう。特に障がい者や留学生などは避難のサポートが大切です。研究室などでは、教員との緊急連絡方法の確認や災害時の非常持ち出し品の準備なども行いましょう。

南海トラフ地震臨時情報が発表された場合

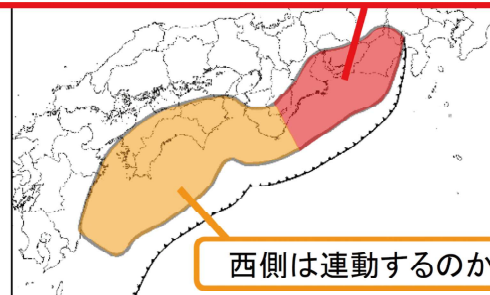
2019年5月31日から南海トラフ地震臨時情報が発表されることになりました。これは、南海トラフ沿いで異常な現象が観測されたり、大地震発生の可能性が高まったと判断されたときに発表されます。情報には、状況に応じて、「調査中」、「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」、および「調査終了」があります。大規模な地震発生が切迫していると判断された場合には「巨大地震警戒」が発表され、日頃の災害への備えを再確認するとともに、発表後1週間程度は津波襲来の危険性がある地域では、事前の避難が必要となります。大学では、授業の実施や帰宅など、大学の指示に従って行動し、併せて各自で情報収集に努め、日頃の備えを確認してください。

内閣府 防災情報のページ:

南海トラフ地震臨時情報が発表されたら!

(<https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/rinji/index.html>)

南海トラフ東側で大規模地震(M8クラス)が発生



西側は連動するの?

「巨大地震警戒」が発表される可能性があるケースの例(西側で先に大地震が発生するケースも考えられる)

(内閣府資料より)

緊急地震速報について

緊急地震速報は、震源近くで地震の発生をキャッチして、少し離れたところに地震の大きな揺れが伝わる前に警報を出すしくみです。岐阜大学内では、屋外放送スピーカーや多くの建物の館内放送を通じて放送されます。この情報を受けたときは、慌てずにまず身の安全を守る行動をとりましょう。また、2023年2月1日より、長周期地震動階級(https://www.data.jma.go.jp/eew/data/ltpgm_explain/about_level.html)で3以上を予想した場合でも、緊急地震速報が発表されることとなりました。緊急地震速報は日頃からどうすれば身の安全を守れるかを考えておくと、いざというときに落ち着いて行動できます。詳しい情報は気象庁ホームページ(<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/>)などで入手することができます。



転倒すると通路をふさぐ棚(名大の例)



揺れによる化学実験室の火災跡(東北大学)

豪雨・台風による被害

内水氾濫・外水氾濫（洪水）と暴風

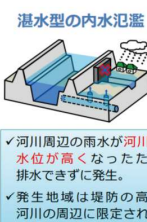
浸水被害には、雨量が下水道などの排水能力を上回ったときに発生する「内水氾濫」と、堤防を越えて水があふれたり堤防が決壊して河川の水や土砂が流出する「外水氾濫（洪水）」があります。いずれの場合も、発生までに時間の猶予があるので、早めの安全確保が大切です。また、暴風警報発表の目安となる平均風速 20m/s を越えるような非常に強い風では、何かにつかまっていけないと歩けない、あるいは飛来物によって怪我をする可能性があります。浸水の可能性が低い場合は、できるだけ外出を控えることが大切です。



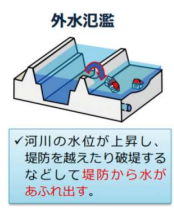
非常に強い風（20m/s 以上）
（イラストは気象庁提供）



氾濫型の内水氾濫
✓短時間強雨等により雨水の排水能力が追いつかず、発生する浸水。
✓河川周辺地域とは異なる場所でも発生する。



浸水型の内水氾濫
✓河川周辺の雨水が河川の水位が高くなったため排水できず発生。
✓発生地域は堤防の高い河川の周辺に限定される。



外水氾濫
✓河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破壊するなどして堤防から水があふれ出す。

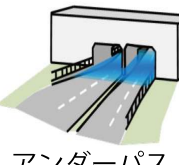
河川の増水によらない

河川の増水に起因

気象庁 HP より

特に注意が必要な場所

道路のアンダーパスや住宅の地下室では、大雨に伴い、短時間のうちに急激に水が流れ込んでくることがあり、避難が遅れると命を奪われる危険性があります。周囲より低い場所にある住宅などでは、床上浸水等が発生する可能性があります。また、河川の流れの速いところでは、侵食や氾濫によって、家屋が流失する恐れがあり、命に危険が及ぶことがあります。



アンダーパス



河川
（イラストは気象庁提供）

雨が降り始めて、氾濫が発生するまで

雨が降り始めてから氾濫発生までには、一定の猶予時間があります。自分が住む場所の水害ハザードマップや土地条件図、住まいの階数、気象庁が発表する防災気象情報や自治体から発表される避難情報等を参考に、早めに適切に安全確保してください。



気象庁が発表する防災気象情報と取るべき行動

気象庁では、気象災害を防止・軽減するために特別警報・警報・注意報や早期注意情報などの防災気象情報を発表し、段階的に注意や警戒を呼びかけています。以下に掲載した各情報の発表タイミングや内容と、自治体からの避難情報に従い、取るべき行動について適切に判断できるように普段から備えておきましょう。

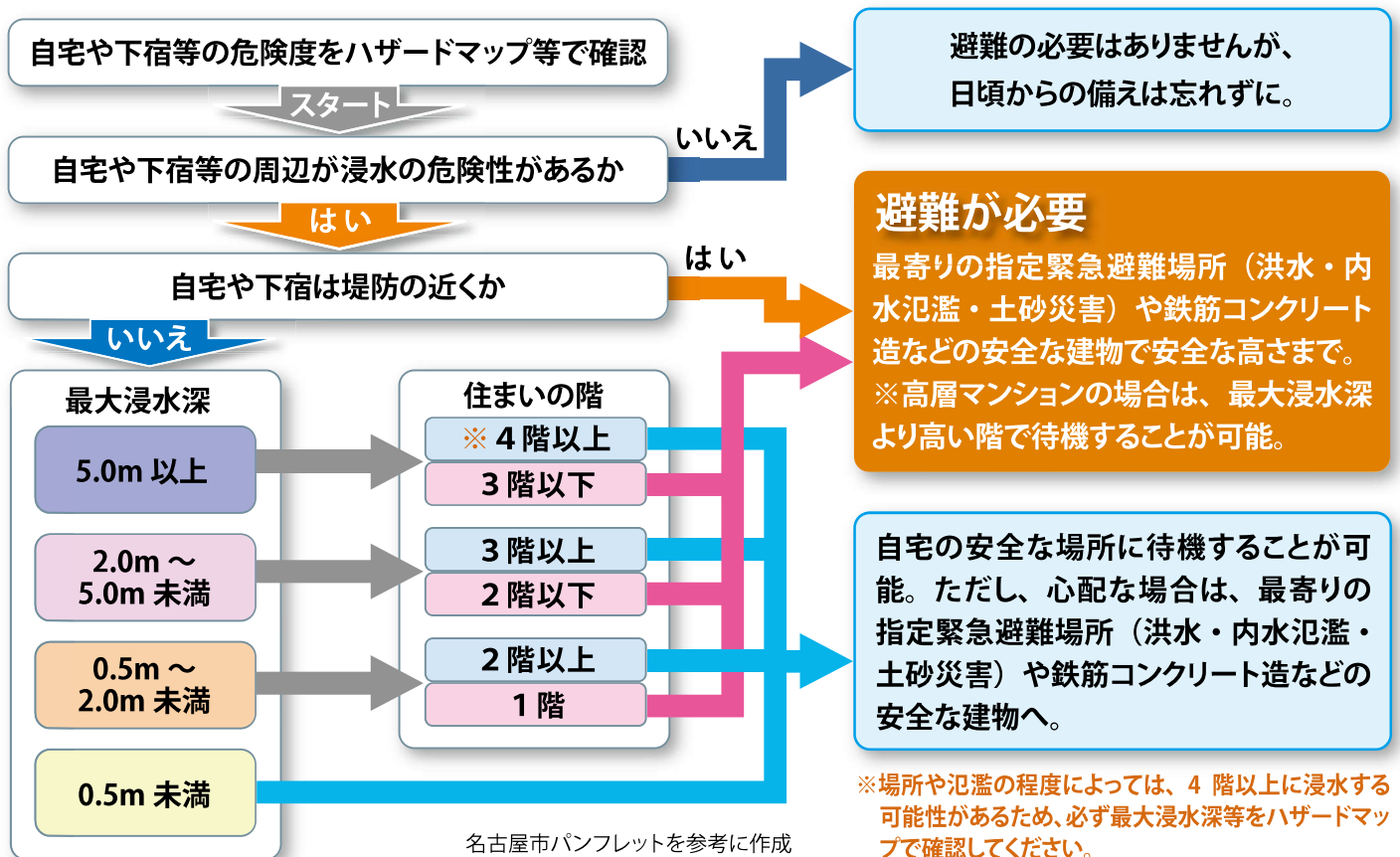
気象庁 HP を参考に修正

気象の状況	気象庁などの情報			自治体からの避難情報	取るべき行動	警戒レベル
大雨の数日 ～約1日前	早期注意情報 (警報級の可能性)				災害への心構えを高める	1
大雨の半日 ～数時間前	大雨注意報 洪水注意報	高潮 注意報			自らの避難行動を確認 ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクや避難情報の把握手段等を再確認する。	2
	大雨警報に切り替える可能性が高い注意報		氾濫注意情報			
大雨の数時間 ～2時間程度前	大雨警報 洪水警報	高潮警報に切り替える可能性が高い注意報	氾濫警戒情報	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 高齢者等以外の人でも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難準備をしたり、自主避難をする。	3
	土砂災害警戒情報	高潮警報	高潮特別警報	氾濫危険情報	危険な場所から全員避難 過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。この段階までに避難を完了しておく。台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
数十年に一度の大雨	大雨特別警報			氾濫発生情報	いのちの危険、直ちに安全確保 安全な場所に避難できておらず、命が危険な状況。今いる場所の周辺より安全な場所へ直ちに移動する。	5

警戒レベル4までに必ず避難する

避難行動の目安

氾濫の危険性がある地域で、大雨の恐れがある場合には、下記のフロー図で確認し、浸水が発生する前に適切な行動をとってください。



警報発表時の大学の授業や試験

岐阜大学では、授業、定期試験等を実施する場所において、各種特別警報若しくは暴風警報が発令された場合には、発令後に開始される授業等が休講となります（ICT を使った遠隔による授業等を実施する場合を除く）。詳しくは岐阜大学ホームページ等を確認してください。

風水害発生時の避難

運動靴をはく

長靴は水が中に入ると歩きにくくなるので、履きやすい紐靴を履きましょう。自動車や自転車による避難はやめましょう。非常持ち出し袋は背負うことで手を自由にしておきましょう。また、浸水が始まったら、原則避難はしないことが望ましいですが、どうしても避難の必要がある場合には、長い棒などを杖にして歩くことで窪みや溝を避けられます。

浸水深がひざの高さを超えたら……

避難行動に危険が伴ってくるので、無理をせず周辺の安全な建物へ避難しましょう。

家族や友人、大学などとの連絡 2 ページ参照

デマに惑わされない 2 ページ参照

避難場所や経路の確認 6 ページ参照

近所の助け合いを

隣近所に声掛けするとともに、病人や歩行困難な人は、背負って避難をしましょう。

自然災害に関する情報収集先

ポータルサイト（ハザードマップ等）

岐阜市（災害への備え）

<https://www.city.gifu.lg.jp/kurashi/bousai/1001341/index.html>

岐阜県総合防災ポータル

<https://gifu-bousai.my.salesforce-sites.com/>

岐阜県総合防災ポータル（スマートフォン用）

<https://gifu-bousai.secure.force.com/>



ぎふ山と川の危険箇所マップ

<https://kikenmap.gifugis.jp/>

ハザードマップポータルサイト（国土交通省）

<https://disaportal.gsi.go.jp/>